



尚操



〈発行所〉

鳥取県立倉吉西高等学校
尚操会

〒682

鳥取県倉吉市秋喜20
倉吉西高等学校内

印刷 (有) 矢積印刷



国際化に向けて 尚操会に期待

尚操会の「カ」に「外国交流基金」が設置されています。かつて、その事業としてフライッピンの高校生を招致したことがあります。

本年度国際理解を深めるため、英語コースの生徒四十名余りがオーストラリアに出かけます。これからの社会では、異文化に対しても偏見なく理解を深めることにより、進んで国際社会に生きる生徒の育成をはかる必要があります。

よく言われるように、日本の国際化は、物・金の交流から人や情報の交流へ、一部の人達の国際化から草の根の国際化へと質的な変化をとげつつあります。そのためには、子どもの時から多くの海外の人々や文化に慣れ、コミュニケーション能力を身につけることだと思います。

この度の海外研修は、これからの二十一世紀を生きる高校生にとって、思いやりの心を持ち、世界の調和を考える人になってもらうよい機会です。早くから国際視野に立つて交流基金を設置されている尚操会に今後を期待しています。終わりにになりましたが、三年後は創立八十周年記念の年です。一つの節目として、倉吉西高が大きな飛躍をしますよう中島尚操会長をはじめ倉吉西高卒業生の皆様のご援助のほどよろしくお願い致します。

(学校長 青目 正)

花・水・木

西高校門前を通り過ぎ高城方面に向かいます。福光橋の右たもとに見るも無残に朽ちかけた茶屋風の建物があります。▲何故その建物が茶屋風であるのか？私は昔の姿を知っているから言えるのです。▲昭和十六年秋、稲刈り奉仕のため倉女は学校挙げて農家に出向きました。私は当時の社村地区に配属されたのです。福光橋の下手にある水田に入り稲束をまとめながら頭を上げると「ちよん平」という看板が目に入りました。▲そうです！その「ちよん平」なのです。当時としては相当こつた数寄屋風の茶屋と記憶しております。▲梨の袋かけ、養蚕の手伝い、そば刈り、芋畑と奉仕は限りなく続けられました。▲「ちよん平」と出会ったことは楽しい思い出として今も生々しく残っております。何とささやかな思い出でしょうか。「ちよん平」はその寿命を終え朽ち果てようとしておりますが、私の入った稲田は開発されることもなく今日も青々と水をたたえておることに喜びを感じます。▲あれから五十年、倉女時代の思い出は「ちよん平」。秋喜に羽ばたく西高生徒の皆様、思い出を大切に母校に愛を、と希う旧卒業生の一人です。

(倉女二十九期生 米山 重子)

八十周年を迎えるにあたり

尚操会長 中島 恵美子



七十周年の祝賀会を終えて、シ
テイホテルのロビーで数人の同窓
生とコーヒーを飲みながら話に
興じた。会の余韻が残っていて
みんな別れ難く興奮の面持ちでし
た。そのとき「先生、次の八十周
年まで元気でいて下さいよ」と声
をかけられた。私ははたして生き
ているかなと複雑な気持ちになっ
た。というのは、八十周年が随分
先のことかと思えたのです。それ
なのに月日の経つのは早いもので、
はや八十周年を迎える準備にあた
らねばならなくなりました。

思いおこせば七十周年の記念事
業の植樹はすばらしかったと学校
を訪れるたびに意を強くしていま
す。樹々は大きく成長し、私達の
夢見た様相を呈してきています。
樹々に包まれている学園は風格を
備えてきました。

さて、八十周年には、何をした
らよいか、植樹に匹敵する事業は

なかなか思いあたりません。八月
十八日の総会には皆さんのよい知
恵をいただきたいものです。

記念誌はどうするか、これはつ
くりです。七十周年発行の記念誌
は写真が主でしたので、この度は
記録をのせたいと計画しています。
もうすでにその担当の先生は、卒
業生の方々を訪問して記録の資料
集めに東奔西走されています。ど
うぞ皆さんのご協力をお願いします
です。

※ ※ ※

雨上りの新緑の美しさに見とれ、
アジサイの幽遠な美に魅せられて
いる今日このごろです。神のつく
りたまいしものの命にふれるたび、
自分も生かされている喜びを感じ
る毎日です。昨年一年病気にい
ただけに、尚操の皆さんはお元氣
かしらとしきりに慰められます。総
会には皆さんにお逢いできると心
はずませています。

最後になりましたが、病氣中は
皆さんより、お見舞いやら励まし
やらのお便りをいただき、どんな
に勇気づけられたか、厚くお礼申
上げます。

同窓会だより

九年卒「つくし会」 東郷湖畔にて

昭和九年卒(土筆会)の私達二
十四名は、卒業後五十六年目の会
を二泊二日東郷湖畔の養生館で楽
しむことができました。古希を過
ぎても何時の間にか歳月を飛び越
して十八才の昔に話が走ります。

記念撮影の後大広間で宴会です。
物故者二十七名の御冥福をお祈り
し、懐かしい校歌を斉唱して、幹事
さんの肝いりによる豪華な夕食に
舌鼓をうちました。

楽しい会話の続く中で、思い出



の歌や詩吟などそれぞれプロ級の
味わいを堪能させていただきました、さ
り気なく動いている抹茶の茶筌扱
きに精進の年月を感じることでし
た。戦中戦後の子育て苦も笑い
で語られるようになって老いを感
ずる今、私達は命を継いで下さる
若い母校の発展を期して止まない
のです。

翌朝、旅館の御厚意による車で
東郷湖を一周、途中羽合臨海公園
あやめ池のほとりを散策し、間も
なく倉吉駅に着いていました。昼
食で名残りを惜しみながら会を閉
じましたが、今回の集いに参加で
きた幸せを感謝することでした。
(倉女二十期生 中野和子 旧高橋)

新緑の鞍馬で 第二回京都支部会

昨年の第一回京都支部会で来年
も是非との声があったので、今年
も六月二日京の奥座敷、美しい緑
とすばらしい清流の鞍馬貴船のひ
ろ文(倉女三十四期生広谷和美さ
ん経営)にて母校より永江教頭先
生をお迎えして開かせていただき
ました。会長中島先生のお体の工
合が悪く御出席願えなかったのが
非常に残念でした。雨の降りしき
る中を倉女第七回卒八十七才の木
村様はじめ二十七名が集いました。
永江先生より母校の皆様へのすば
らしい活躍や今後の計画等沢山の



お話を聞かせていただきました。

そのあと川口支部長の上手な司会
進行で和気あいあいとはじまりま
した。お茶の先生をなされておら
れる朝倉さんのお弟子さんにより
抹茶のお手前をいただき、サービ
ス満点のひろ文特別の御料理には
一同感激の舌つづみをうちました。
カラオケも大変盛り上がりました。
木村、若林さん御姉妹の女学校時
代に習われた歌の合唱、ひろ文お
かみさんの貝がら節、三朝小唄、
永江先生の歌「霧子のタンゴ」に
は一同しびれました。皆さんが何
らかの歌を披露しなごやかな楽し
い一日をすごさせていただきました。
今後も京都支部の皆様と度々
会をもって親睦を深めたいとい
ち思います。(倉女三十期生
中原百合子)

創立八十周年に向けて

本校は今年創立77年目の年に当たり、3年後には創立80周年を迎えます。倉吉西高の歴史を振り返りますと、大正3年町立倉吉実科高等女学校として開校、校舎は成徳小学校旧校舎の西校舎に設置されました（写真1の正面が西校舎）。



大正6年東伯郡立に変更され、大正7年余戸谷町に新築移転となりました（写真2）。



大正10年県立倉吉高等学校として、名実ともに本県中部地方における女子教育の殿堂となり、知性豊かな子女の育成と地方文化の振興に貢献してまいりました。写真3は昭和初期の正門、（写真4）は昭和初期のグラウンドです。昭和23～27年、本校も戦後の大変革に遭遇し、校名の改称や男女共学制に移行しました。（写真5）は昭和23年第二高等学校の時のものです。

昭和28年高校再編成により県立倉吉西高等学校となりました。昭和31年に32名の男子生徒が巣立った後、13か年にわたり女子生徒のみでしたが、昭和44年再び26名の男子生徒を迎えてから、たしかな共学体制への道を築いてきました。（写真6）は昭和36年校舎の全景です。昭和42年には蒜山寮さわらびの家が新築されました。

昭和49年12月倉吉市秋喜の新天地に全面移転を完了し、昭和58年英語コースの設置、昭和60年生徒心得を廃止し、生徒憲章を定めました。現在、学校正面に校塔をかもえ（写真7）、新の通学路を配し、全国でも珍しい生徒憲章のある学校となりました。また、平成2年11月中国地方初の文部省指定同和教育研究発表会では、自他を敬愛し「ともに生きる心」を育てる本校教育の再確認と、今後さらに一層充実させることを誓う大会

みでしたが、昭和44年再び26名の男子生徒を迎えてから、たしかな共学体制への道を築いてきました。（写真6）は昭和36年校舎の全景です。昭和42年には蒜山寮さわらびの家が新築されました。



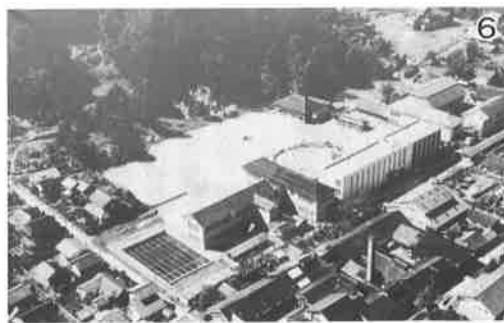
となりました。このように、学園環境の整備はますます充実し、高等女学校時代



から引き続き「先駆け」の精神により倉吉西高校が発展してきたことは、周知のとおりです。

創立80周年を記念する事業の一つとして、記念誌発行を計画しています。本校独特の伝統ある校風として継承されてきたものを記念誌としてまとめ、将来「故きを温ねて、新しきを知る」倉吉西高校の貴重な指針にしたいと思えます。しかしながら、昭和33年（旧余戸谷町時代）に本館の火災によって、貴重な資料、記録類が焼失してしまいました。そのため高等女学校時代の資料収集には、困難を極めております。

つきましては、高等女学校時代の写真、アルバム、尚操（冊子）などの資料をお借りできませんで



しょうか。特に、昭和10～23年ごろまでの記録類がありません。学校新聞、尚操（学校の様子が記載してあるもの）等年月日のはっきりしている資料を捜しています。何卒、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

《連絡先》

創立80周年記念誌編纂委員

竹ノ内 誠



母校はいま…



オーストラリアに 海外研修

深まる国際理解教育

昭和58年に英語コースを設置して以来、生徒憲章第6項目「私は常に進取の精神を持ち、視野を世界に広げます。」の精神のもと、国際理解教育を推進してきました。また英語コースを核とした国際色豊かな本校の特色づくりを進めるため、平成3年度より一学年にも『英語コース』を設置しました。



推進事業として種々の活動を行っています。そのうちから主なものを紹介させていただきます。

(1) 国際理解サマーセミナー

これは英語コースを中心とする生徒が、県内在住の外国人(10名程度)と寝食を共にしながら、語学トレーニングと異文化理解を行うためのものです。内容は班活動と全体活動が中心ですが、野外炊飯・ハイキング・天体観測等もあります。県立上山山少年自然の家を利用した2泊3日の日程です。

(2) 外国料理講習会

外国人を講師として招待し、その国の自慢料理を生徒が作ります。作る喜びを味わいながら、生きた言語学習のできる機会でもあります。料理を囲んでの会食では、なごやかな雰囲気での相互の文化交流が深まります。

(3) 海外短期留学研修

平成3年度より英語コース一年生希望者を対象に、「オーストラリア海外短期留学研修」を実施することにいたしました。第一回目は来年の春休みを利用して(3月25日~4月4日)43名の生徒が参加する予定です。シドニー郊外でホームステイをしながら、午前中は公立高校へ通って英会話の授業を受けます。午後は現地の生徒たち

との文化交流プログラムがあります。相互の文化を披露し合ったり、スポーツを通じて交流を深めたりします。また週末はホストファミリーとの自由行動ですが、外国の自然・文化等と直接ふれあって体験することにより、生徒たちは国際理解を深め国際社会に生きる資質を養ってくれるものと期待しています。(英語科 伊藤弘弘)

進学

難化は進む しかし、やればできる

史上2番目といわれる大量の受験生をかかえた平成2年度のセンター試験は、平均点が前年より32点も上昇し、加えて分離分割方式採用の大学が増加して、受験校絞り込みがきわめて難しくなりました。案の定、国公立大の1校受験化と私立への併願大幅増、その結果、ランクの低い大学も一挙にランクアップし、2年度の入試はかつてない大量の浪人を生み出しました。その中で、本校の生徒はよく健闘しましたが、超難化の前にいま一歩力及ばず、東京学芸、横浜国大、和歌山、鳥取、島根、岡山、山口女子、長崎県立国際経済など国公立大9名、早稲田、明治中央、立命館などをはじめとして私立66名、国公立短大5名、私立短大54名という結果でした。前年度に比べて合格者数が減少

したとはいえ、けっして、本校生ができないということではなく、超難化の中にあっても、しっかりと目標を定め、それに向かってひたすら全力を尽くせば必ず栄冠は得られる、ということを示した数だと理解しています。本年度入試は18歳人口が戦後最大のピークを迎え、昨年度よりさらにいっそう厳しくなります。しかし、やればできる、と信じています。(福岡義行)

**平成3年度尚操会
総会あんない**

と き 8月18日(日) 10:00~
ところ 倉吉シティホテル
TEL 26-6111 (代)
会 費 ￥2,000

お誘い合わせ、多数のご参加をお願いします。

就職

求人数数 希望者漸減

相変らずの人手不足で、七月一日より続々と求人に来校され、また毎日どっさり求人票が郵送されて来ます。

対するに、女子の就職希望者の方は昨年並に二十名程ありますが、男子は十名を割っている現状です。ちなみに国家公務員も先日出願し

ましたが、昨年の半数程の二十名でした。一段と進学率が高くなっています。既に決定済の人もいますが、西高祭が終わって、いよいよ本格的に会社選びが始まります。これからの長い人生です。簡単に離転職のないように、あくまで自分の適性を最優先に、充分に研究して、就職先を決定して欲しいものと思います。(金居晋一郎)

活躍めざましい クラブ活動

三十一の運動・文化部が意欲的に部活動に取り組んでおります。六月はじめの県高校総体では各部が健闘しました。その結果、弓道男子団体(優勝)、個人男女三名(優勝・準優勝)、空手女子一名(組手優勝)、卓球個人男子一名(三位)、陸上女子一名(走幅跳)の十二名が全国高校総体に出場します。硬式野球部も春秋ベスト4、甲子園目指して猛練習中。文化部では放送部が活躍、二本のテレビ番組が全国大会に出品されます。

あとがき

本校生誕七七歳、喜寿の祝いを迎えました。あと三年で八十周年記念式典には百周年に向けてタイムカプセルを埋めたい、そんなことを考えています。(編集子)